

「多くの人の笑顔のために」

- 重症心身障がい、難病、長寿医療を柱とし、地域に密着した専門医療を提供します。
- 社会的なアプローチを組み入れ、患者中心の心あたたまる医療を実施します。
- 臨床研究、教育研修、安全管理をとおして、常により質の高い医療を追求します。
- 公益性を確保し、効率的で自立した病院経営を推進します。



令和7年度 新採用者オリエンテーション

特定行為看護師の紹介

はじめまして、令和7年4月1日付で着任いたしました看護部長の熊取谷かおる（くまとりや）と申します。どうぞ、よろしくお願いします。

今回は、当院の特定行為看護師を紹介させていただきます。特定行為とは、看護師が「診療の補助」として実施することができる「相対的医行為」のうち高レベルな行為を指します。その特定行為は、21区分38行為あり、この行為を実践するための必要な高度知識と技術を指定機関で学び修了認定を受けた看護師のことを特定看護師といいます。「手順書」という包括的指示のもと、入院でも在宅でも、医師の到着を待たず、患者さんの症状にあわせて必要な適切な処置ができる実践能力の高い特定行為看護師が増えると、症状が悪化せず、患者さんにとっても医療者にとってもメリットが大きいのです。当院には、気管カニューレの交換・胃ろうカテーテル若しくは腸ろうカテーテル又は胃ろうボタンの交換、褥瘡又は慢性創傷の治療における血流のない壊死組織の除去、脱水症状に対する輸液による補正ができる特定看護師が在籍しております。特定行為看護師が必要でありましたら、どうぞお声がけください。

これからも、病院職員が一丸となって、患者さん、地域住民のみなさん、地域の医療従事者のみなさん、そして当院の職員、多くの人の笑顔のために、医療・看護に取り組んで行きたいと思います。



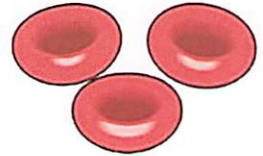
看護部長
熊取谷 かおる

血液腫瘍・がん医療

血液腫瘍内科医長 大槻 希美

今年度は外来通院がメインとなる血液疾患について述べたいと思います。主に、血液疾患は赤血球・白血球・血小板の異常があり(多いか少ないか)、それが腫瘍性かそうでないかに分かれます。悪性リンパ腫、多発性骨髄腫、骨髄異形成症候群であっても外来通院出来る時期はあります。一方、本態性血小板血症や免疫性血小板減少性紫斑病、多血症などは外来治療が主となります。

多血症から書きます。こちらは相対的に赤血球が増えるものと絶対的に増えるものに分かれます。相対的な場合は喫煙や高血圧、脂質異常症などをともなっていることが多いです。症状としては顔が赤い、頭痛、めまい、体の痒みがありますが、これらの症状をきっかけに受診される方は少ないです。健康診断や、血液検査を受けたことをきっかけに受診されます。相対的な場合は生活習慣が関わっているため、禁煙や減量などが必要になります。絶対的な場合は造血幹細胞の異常で造血することがあります。この場合、血栓症合併リスクを下げるため、抗血小板薬を使いつつ、瀉血を行うこととなります。



行動障害のある重症心身障がい児（者）への理解と支援

3階病棟 看護師長 稲垣 リサ

当院の重症心身障がい児（者）には行動障害を併せ持つ患者さんが多く入院されています。行動障害のある方は自分の気持ちを周りに伝えることが困難であり、自傷・他害・こだわり・もの壊し・異食などの行動が起こりうるため、特別な支援が必要になります。さらに高齢化も進んでいるため医療的ニーズも高まっています。患者さんが安心して入院生活を過ごすためには、多職種による専門的医療の展開や治療的関わり、また、個別の年齢や状態に応じた支援を提供することが必要となります。

私たちが言葉の通じない見知らぬ街で道に迷った場合、不安や混乱・苛立ちでいっぱいになると思います。自分の思いが伝わらないことはとても不安でいっぱいだと思うのです。行動障害は周囲を困らせる行動では決してありません。‘自分が困っている、というサイン’だと私は考えます。私たちは患者さんの良き理解者となり、行動を制限するのではなく、患者さん一人一人の強みや興味を知り、最適な環境をチーム一丸となり提供し整えていくことが大切であると考えます。



安全な輸血医療と若い世代の献血が不可欠である理由

臨床検査技師長 角谷 勇実

貧血の時に赤血球製剤を輸血する前には、交差適合試験(クロスマッチ)という検査を行っています。ただ単に血液型を合わせるだけでなく輸血した赤血球が溶けてなくならないように確認をする検査です。輸血歴や妊娠歴のある人には免疫抗体を産生してしまう場合があり、この抗体を見逃さないように日頃から検査の研修は欠かせません。

当院では頻回に輸血をされる血液疾患の患者さんも少なくなく、定期的に輸血をされる方がおられます。あわら病院では血液センターの協力のもと安全で安定供給してもらえる血液製剤を有効かつ大切に取り扱っています。輸血用の血液製剤を使用されている方の約85%は50歳以上で、そんな中、献血されている方の60%以上は50歳未満の方々であり、この世代の方々が輸血医療を大きく支えています。しかし、若年層(10~30代)の献血者数は減少傾向にあります。日本の少子高齢化が今後ますます進んでいくと、将来の安定供給に支障をきたす恐れがあります。今後の安定供給のためにも、若い世代の献血が不可欠になっています。





地域医療連携施設のご紹介

あわら病院と連携している医療機関等をご紹介します

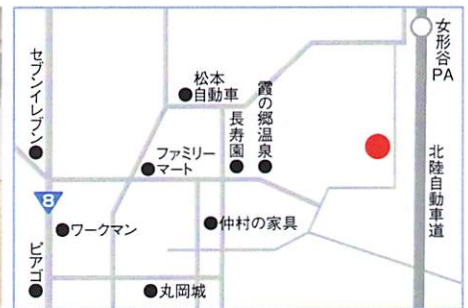
社会福祉法人 かすみが丘学園

社会福祉法人かすみが丘学園は、福井県坂井市丸岡町女形谷の地に昭和41年(1966年)6月1日に福井県下初の18歳以上の知的障害者のための施設として誕生しました。当初は70人定員でスタートした施設ですが、現在は障害者支援施設、グループホーム(8か所)、就労支援センター、生活介護事業所、相談支援事業所などを運営しております。

「利用者の満足・支える仲間の活力・地域への貢献」の法人経営理念のもと、共生社会の実現を目指し、地域との関わりを大切に、地域行事や障害児・者総合支援協議会等への参画を通じて、障害を持った方々の社会活動や権利擁護、高齢・重度化対策など様々な課題に取り組んでいます。

弊法人でも入所利用者の高齢・重度化が進んでおり、あわら病院には継続的な治療が求められる方に対し、一人ひとりの状態に合わせた入院看護にご協力いただいています。

私共も「一人ひとりの想いに寄り添って、繋げる力 ～The Best Smile～」を第三期中長期計画(令和7～11年度)のスローガンとして掲げ、地域で暮らす障害を持った方の、より豊かで安心と笑顔あふれる人生につながる社会参加への支援や、福祉サービスの提供に努めてまいります。



〒910-0211 福井県坂井市丸岡町女形谷59-17 TEL:0776-66-1272 FAX:0776-67-3658

退院後の在宅支援を支えます

訪問看護ステーションアイリス 訪問看護師 若松 千恵子

この春から訪問看護ステーション「アイリス」に異動しました若松と申します。これまでは病棟での看護に携わっており、初めての病棟外の勤務となり一人で訪問するため、一人で判断していけるのか不安に感じていました。しかし対応に不安を感じた時には上司や先輩に相談や確認ができる体制が整っており、異動して2ヶ月を過ぎた今は安心して訪問看護に向かうことができます。

この2ヶ月の間で嬉しかったことは、あわら病院からご自宅に退院された利用者さん宅に訪問させていただく機会がありました。利用者さんは私の名前や顔を覚えてくださり、念願の家に帰ることができたことを嬉しそうに話してくださいました。入院中ではほとんど声が出せない状況の患者さんがこちらに聞こえる声で、また冗談も交えながらお話をしてくださいました。入院中とは違う、活気ある生活をされている利用者さんの姿をみることができ、とても嬉しく思いました。

利用者さん本人が望む暮らしの実現に向け、病棟ではリハビリ担当者や退院支援看護師など院内の多職種との連携が大切でした。訪問看護ではケアマネジャーや訪問介護など地域での多職種との連携が重要だと感じています。時期を逃さず的確な支援をするために、制度などの正しい知識を持ち、病棟の看護師とも情報共有していけるよう、今後も研鑽を続け、在宅での生活を支援していきたいと思っています。



外 来 担 当 医 表

(令和7年7月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金
総 合	内 科	見附 保彦	見附 保彦	大槻 希美	浦崎 芳正	野村 量平
	小 児 科	川満 徹*	川満 徹*	川満 徹*	福井大学医師*	川満 徹*
専 門	リ ウ マ チ		津谷 寛		津谷 寛	
	血 液 ・ 腫 瘍			浦崎 芳正*		大槻 希美 (第2・4)
	生 活 習 慣 病			桐場 千代 (第2・4)		伊藤 和広
	老 年					栗田 敦 (第1・3・5)
	神 経					内田 待望
	循 環 器			見附 保彦	見附 保彦	
	整 形 外 科	山本 泰資				
	皮 膚 科		若原 真美*			
	眼 科				吉岡 達也*	
	地 域 ケ ア		栗田 敦			
	禁 煙 外 来	見附 保彦				

● 受付時間(午前診療)8:40~11:30 ● 黄色枠は予約制 ● *印は午後診療 ● 休診日/土・日・祝日・年末年始

※皮膚科の診察は、**火曜日の13:00~15:00(受付時間14:30まで)**です。

※最新の医療体制についてはあわら病院ブログ「診療体制の最新情報」をご覧ください。



母の日

5月の第2日曜日はお母さんに感謝の気持ちを伝える“母の日”です。母の日と言えば、カーネーションを贈ることが定番ですが、お母さんの好きな食べものや、調理しやすいメニューを子供が手作りしてお母さんにプレゼントするご家庭もあるようです。あわら病院では、少し早く、『ケチャップライス、鶏の唐揚げ、キウイゼリー』を提供しました。ケチャップライスや唐揚げが、母を思い出す優しい献立になりました。



外来待合に

デジタルサイネージを設置しました



色々な情報を分かりやすくお知らせできればと考えています。

また、毎月情報を更新しますので、当院ご利用の際、待ち時間などにご覧いただければ幸いです。

独立行政法人

国立病院機構 あわら病院

福井県あわら市北潟238-1

TEL.0776-79-1211 (代表) FAX.0776-79-1249

〈地域医療連携室〉 FAX.0776-79-1261

URL <https://awara.hosp.go.jp/>

交通のご案内

えちぜん鉄道「あわら湯のまち」駅より(約5km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

ハピラインふくい線「芦原温泉」駅より(約10km) 乗合タクシー[事前に登録が必要です]

※乗合タクシーを利用するためには事前に登録が必要です。

乗合タクシー(デマンド交通)は、お電話1本で、停留所から目的地の近くの停留所まで直接行けるシステムです。

《お問い合わせ先》あわら市役所 生活環境課 生活グループ 0776-73-8017